

青葉山公園
(仮称) 公園センターの整備に関する懇話会

意見報告書

平成 28 年 12 月

青葉山公園(仮称)公園センターの整備に関する懇話会

目 次

はじめに	1
第1章 懇話会の経過	2
1. 目的	2
2. 委員の構成	2
3. 開催状況	2
第2章 懇話会意見の概要	3
第3章 懇話会意見のまとめ	6
1. エリア全体のコンセプト等について	6
2. 機能について	7
2-1. 情報発信	7
2-2. 飲食・休憩	8
2-3. 体験交流	8
3. 施設について	10
4. 運営・名称など	12
「3. 施設について」補足資料	14
【巻末資料】	
委員名簿	17
懇話会資料	18
第1回懇話会資料	18
第2回懇話会資料	38
第3回懇話会資料	62

はじめに

青葉山公園は、仙台の礎である仙台城跡を含む青葉山と広瀬川に囲まれた区域において、市民や仙台を訪れた人が、藩政時代からの歴史的・文化的資源や優れた自然環境に親しむことができる杜の都のシンボルとして整備が進められている仙台市を代表する公園である。

青葉山公園の中核施設とも言える（仮称）公園センターは、青葉山公園、仙台城跡方面への玄関口として、来訪者に向けた「杜の都仙台の歴史・文化の発信」を基本的なコンセプトとしながら計画が進められている。

近年、青葉山周辺エリアにおいて、地下鉄東西線の開業による利便性の向上や、大規模な会議やイベント等の開催など、交流人口が拡大し、このエリアにおいて公園センターが果たす役割はますます大きくなっている。そのような状況から、仙台市は、「青葉山公園（仮称）公園センターの整備に関する懇話会」を立ち上げ、建築、歴史、観光、造園、まちづくりなどを専門分野とする委員によって、本年6月から10月までの間、4回の懇話会が開催された。

懇話会では、公園センターの機能や役割、整備イメージなどについて、それぞれの立場から、活発な意見交換を行い、さらに、公園センターの予定地や仙台城跡周辺の現地確認を行うことによって新たな気づきや発見があり、有意義な意見交換を行うことができた。

本懇話会での様々な意見については、「青葉山公園（仮称）公園センターの整備に関する懇話会意見報告書」としてとりまとめた。今後の計画に十分に活かしていただき、公園センターが青葉山、仙台城跡の魅力を引き出し、多くの市民に喜ばれ、誇りに思う場所となることを願っている。

平成28年12月6日

青葉山公園（仮称）公園センターの整備に関する懇話会

座長 本江 正茂

第1章 懇話会の経過

1. 目的

青葉山公園は、仙台の礎である仙台城跡を含む青葉山と広瀬川に囲まれた区域について、藩政時代からの歴史的・文化的資源や優れた自然景観を生かしながら、市民や仙台を訪れた人が親しむことのできる杜の都のシンボルとなる公園として整備している。

本懇話会は、青葉山公園整備基本計画（平成 25 年3月）において「いこい・にぎわいゾーン」に計画されている（仮称）公園センターについて、様々な専門分野の有識者から幅広くご意見を伺い、（仮称）公園センターの基本計画に反映させていくことを目的とする。

2. 委員の構成

建築、造園、歴史、観光、まちづくり等の専門分野の有識者 11 名で構成

（巻末資料委員名簿のとおり）

3. 開催状況

開催日	内容
第1回懇話会 平成 28 年 6 月 1 日（水）	懇話会の運営、進め方について説明 座長、座長代理の選出 公園センターの計画概要についての説明
第2回懇話会 平成 28 年 7 月 19 日（火）	現地視察（国際センター地区、追廻地区、本丸地区） 意見交換 ・公園センターの役割と施設内容について① ・整備イメージについて① ・民間活力の導入と事業者や市民活動団体との連携について①
第3回懇話会 平成 28 年 9 月 9 日（金）	意見交換 ・公園センターの役割と施設内容について② ・整備イメージについて② ・民間活力の導入と事業者や市民活動団体との連携について②
第4回懇話会 平成 28 年 10 月 25 日（火）	意見交換 ・議論のふりかえりと意見整理について ・懇話会意見のとりまとめについて

第2章 懇話会意見の概要

1. エリア全体のコンセプト等について

◇市民に喜ばれるという視点

市民が青葉山公園を誇りに思い、日常的に楽しみ、憩いの場として利用していること、更に、市民がもてなす側として青葉山の魅力づくりに関わっていることが、来訪者の再び訪れてみたいという思いにつながると考えられる。整備にあたっては、このような日常の利用と活動を通じて市民に喜ばれるという視点が必要である。

◇青葉山・仙台城跡のエントランス

公園センターは、青葉山、仙台城跡を楽しむに行くためのエントランスであり、本丸地区に登る、広瀬川へ下りるなど公園内を移動する拠点であると考えられる。そのために必要な情報発信などの機能を担う必要がある。教育旅行の拠点としても考慮すべきである。

◇周辺施設の連携の拠点

仙台市博物館や国際センターなどの周辺施設をつなぎ、連携の拠点となって、周辺エリア全体の魅力を向上させることが必要である。

◇既存資源の魅力向上

仙台城跡と広瀬川など、青葉山周辺の今ある歴史・自然資源をつなぎ、その魅力を引き出し、向上させることが必要である。

2. 機能について

(1) 情報発信機能

◇仙台・青葉山を知るきっかけとなる情報

青葉山の全体像や周辺施設、青葉山が誇るべき仙台城の石垣、天然記念物、博物館の情報を発信し、実際に出かけて見に行くきっかけとなることが必要である。また、青葉山公園をより楽しむための様々な体験プログラムの情報についても発信することが必要である。

(2) 飲食・休憩機能

◇幅広い時間の公園利用に対応

早朝の散策やランニング、夜間の飲食や休憩などに利用できることが必要である。

◇周辺施設と異なる特徴

飲食施設は、地元業者の参画も視野に入れながら、周辺施設と異なる特徴を持たせ、公園センターだけではなくどの施設にも人が集まると良い。

(3) 体験・交流機能

◇「体験」の充実

「本物」、「仙台らしさ」や「健康」などの視点で、市民活動団体や民間事業者の工夫により来訪者が様々な体験や活動ができることが必要である。

2. 機能について（続き）

◇市民活動との連携

公園センターは市民活動団体の活動を支援し、市民活動団体は来訪者へ体験プログラムを提供するなど、公園センターのサービスと団体の活動が共に円滑に行われていく仕組みが必要である。また、市民活動団体や民間事業者と話し合いをしながら、この場所で行われる体験プログラムのガイドラインをつくと良い。

◇仙台らしいおもてなし、ユニークベニユーの展開

仙台らしいおもてなしやユニークベニユーを展開するために、青葉山の景観と歴史的な特性を十分に生かすとともに、インバウンドについては、「本物」の体験を提供し、ニーズの変化への柔軟な対応ができるようにしておく必要がある。

◇仙台の歴史・文化発信の工夫

単なる展示ではなく、訪れたその季節の雰囲気を感じられること、体験も含めたソフト展開が必要である。武家屋敷があった場所で、町人文化であるお祭りの山車を展示することは違和感があるため、歴史的な経緯も併せて展示するなどの工夫をすべきである。お祭りの展示と体験は、公園センター以外にも、国際センター駅やメディアテークでの展開も考えられる。

3. 施設について

◇市民の誇りとなる場所

市民が誇りを持って案内でき、将来の仙台市民にとっても誇りとなる場所となると良い。

◇文化財の保護

公園センター予定地は仙台城跡の一部であり、遺構の保護には十分に留意する必要がある。また、遺構についての情報発信をすると良い。

◇デザインの考え方

この場所の藩政時代などの重層的な歴史、地形の特性、公園センターで展開される機能を踏まえながら、歴史的風情と豊かな自然と調和したデザインとすべきである。過去から現代、未来へと歴史をつないでいくデザインとなると良い。復元建築物と誤解されないように留意が必要である。

◇一体的なデザイン

建物だけではなく、ランドスケープとしてとらえ、遠景での見え方、近づいていくときの見え方及び建物の素材の質感など空間を一体的にデザインすることが必要である。

◇ゆとりのある施設配置

追廻地区の広々と開放的な土地を生かし、ゆとりのある施設配置とし、工夫次第で何かができる余地を残しておくべきである。

◇「場所」のデザイン

来訪者が最初に訪れる建物の北側と東側が公園センターの顔となる場所と考えられ、デザインの工夫、広瀬川の石垣の見せ方の検討、また、大橋から公園センター、更には登城路への誘導動線の整理が必要である。

3. 施設について(続き)

◇大橋からの見え方

大橋をメインアプローチと捉え、大橋からの公園センターの見え方、そこから青葉山へ進んで見えてくる風景の連続性を重視して空間をデザインする必要がある。

◇広瀬川とのつながり

来訪者が広瀬川のせせらぎと良好な眺望を体感できるように、また、公園センターを拠点とした川での活動も考慮し、公園センターと広瀬川がつながるような空間デザインの工夫が必要である。

◇設計の進め方の工夫

良い建築家が選定されれば、この場所の歴史的な意味を踏まえ、様々な要望を解決し、現代的な技術を使ってふさわしい建築を行うことができると思う。仙台市が示す方向性をもとに、設計者の創造力が発揮できる方法とすべきである。また、設計のプロセスをオープンにし、様々な議論をして、設計に反映されていくと、期待が高まり、市民のプライドとなるような公園センターになると考えられる。

4. 運営、名称など

◇公園のマネジメント

地元の活動団体や周辺施設、仙台市などの青葉山公園の関係者による運営協議会によって、公園をマネジメントしていくと良い。

◇公園センターの名称

公園センターの機能にふさわしい名称があると良い。

第3章 懇話会意見のまとめ

懇話会委員からいただいた意見について、下記の項目ごとにまとめた。

1. エリア全体のコンセプト等について
2. 機能について
 - 2-1 情報発信
 - 2-2 飲食・休憩
 - 2-3 体験・交流
3. 施設について
4. 運営、名称など

1. エリア全体のコンセプト等について

(1) 基本的な考え方

- ・青葉山公園は、市民が幸せそうに楽しんでいる、自然に人が集まってくるような場所になると良い。そのようなポテンシャルの高い公園であると思う。
- ・市民にとっては、青葉山公園を公園として楽しむことが重要である。日々足を運び、特に何をしているわけでもなく長い時間過ごせることが公園の基本的な機能でもある。市民が日常的に楽しみ、憩い、また、積極的にホスト役として自らプログラムを実施するなど、青葉山の魅力づくりに関わっている姿は、観光客にもアピールできると思う。
- ・求められる機能はいろいろあるが、「憩う」など、市民が一番喜ぶものは何かという点で内容を考えるべきである。
- ・今後の整備により、仙台城からまちに開けていくような場所になって、市民がより身近に青葉山を感じられると良い。
- ・青葉山は、自然や歴史の重層性があり、多様な資源があるので、一回だけの来訪ではなく、何回も訪れる場所になると良い。そのためには、公園センターを中心としたソフト面のコンテンツの充実が必要である。
- ・藩政時代だけでなく、この場所のそれ以前や、現代までの様々な歴史についても目を向けると良い。

(2) エントランスと拠点としての役割

- ・公園センターが、公園と仙台城全体を楽しむに行くためのエントランスになるということをコンセプトとして強く押し出すべきである。
- ・何か特定の物を見るための施設ではなく、本丸地区に登っていく、広瀬川に下りる、溪谷に行くなど公園内の移動の中心となることが大切である。

- ・青葉山公園の主役は、仙台城跡と広瀬川であることが重要で、それらへのアクセスと公園利用を支えるものとして、周辺施設には無いコンビニ、ランナースポット、大きな休憩所があると良い。
- ・海外ではホテル宿泊者が、周辺でランニングやトレッキングをするというスタイルがある。その後、カフェで食事をとったり、くつろいだりもするが、そのような場所としてこのエリアは適している。
- ・教育旅行の拠点として、それに適した情報案内や、生徒や先生の待機場所などの利用についても考慮すべきである。

(3) 周辺施設との連携など

- ・公園センターに機能を詰め込み過ぎず、シンプルにすることが重要である。周辺の施設が行える機能は含めず、この場所ならではの内容とすべきである。
- ・青葉山公園の課題をどのように解決するかという視点、エリア全体の魅力をいかに引き出し、向上させるかという視点が重要である。
- ・周辺施設は、機能がそれぞれ完結しているため、つながりがなく分断されていることが問題である。青葉山全体が公園センターによってつながりができて、一つの公園として認識されることが大切である。
- ・公園センターは、気軽に利用できる施設であり、どこに行くとどのようなことができるかわかることが大切である。その情報により、エリア全体へ誘導し、連携したイベントの開催など波及効果が生まれると良い。キャンパスツーリズムを実施している東北大学との連携も行えると良い。
- ・コンベンション開催など仙台に優位性がある部分を大事にし、それに対し現在エリアで不足している飲食機能を提供したほうが良い。
- ・施設だけではなく、広瀬川や青葉山周辺も含めた広いエリアをつなぐことが必要である。
- ・「るーぶる仙台」で巡る瑞鳳殿、博物館、仙台城跡はそれぞれ点として捉えられているが、公園センターができることによって面として楽しめると良い。

2. 機能について

2-1. 情報発信

(1) 基本的な考え方

- ・公園センターでしか学べない、知ることができない情報が核になり、体感できることを加えて、特徴的な内容にすべきである。
- ・仙台を知るきっかけとなる概略や基礎知識を発信することで、市内各地の歴史解説が理解しやすくなるが良い。
- ・市民が、仙台のまちの来歴などを気軽に知ることができ、歴史を持った場所に住んでいることを誇りに思えると良い。
- ・来訪者は最初に自分が行きたい場所へ行くので、どの施設においても青葉山公園や仙台城跡の概要がわかることは必要である。

- ・ガイドにより、鳥の鳴き声や花の移り変わりなど普段気が付かないことに気づき、新たな魅力発見ができるという。

(2) 公園の情報

- ・青葉山公園（仙台城跡）のすばらしい石垣、天然記念物、博物館の展示等が見られるという情報を提供することが大切である。
- ・地形等の自然的要素をどのように利用して仙台城ができたかが理解でき、本丸があった山の頂上から広瀬川に至る一連のダイナミックな地形が体感できるような仕掛けで、散策など活動の幅が広がると良い。
- ・片倉小十郎屋敷があったという歴史的な事実をどのように発信するか工夫が必要である。

(3) 外国への情報

- ・外国人への情報案内については、公園センターの機能からすると、国際センターの交流コーナーや仙台駅の案内所と扱う情報が異なるので整理が必要である。

2-2. 飲食・休憩

(1) 基本的な考え方

- ・カフェ、テラスについては周辺施設と異なる特徴を持たせ、利用しやすくし、エリアのどの施設にも人が集まるようにすることが必要である。
- ・自然観察、星の観察、ライトアップによる紅葉観賞など、朝や夜ならではの公園利用が期待できる。このような、早朝から夜間まで幅広い時間の公園利用に対応できることが大切である。
- ・地元のカフェが出店すると、他には無い特徴的なものとなり、人がより多く集まることも考えられる。

2-3. 体験・交流

(1) 基本的な考え方

- ・仙台は、観光面で特に「体験」、「アクティビティ」を強化する必要がある。公園センターの体験交流機能がそれを担うべきである。
- ・建物自体を整備するだけでは集客につながりにくい。その中で行われるソフト事業の展開が重要である。
- ・公園センターで行う体験や活動について、こんなことができるというイメージが発信できれば、青葉山公園を特徴づけることができると思う。
- ・コンベンションの開催で外国人の来訪も多くなり、仙台城の大広間をイメージするなどおもてなしの場が必要である。普段は市民が利用し、お茶会や日舞の練習ができると仙台らしさも示すことができると思う。

- ・公園センターを拠点として健康という視点で、ヨガなど、地域の方たちと一緒に活動していくことも考えられる。
- ・青葉山公園の特徴を生かし、市民や事業者がイベントを開催する場所の一つとなるとよい。

（２）市民活動との連携

- ・仙台は市民活動が盛んで、市民活動団体が公園センターを利用する立場でもあり、サービスを提供する立場にもなるという仕組みがあり、活動の連携が図れることが大切である。
- ・公園センターを利用する団体へ活動を支援する機能があると良い。それにより、活動全体がポジティブに回り、観光客にも、仙台は市民レベルが高い良い場所だというイメージが作られると思う。
- ・公園センターで活動したい人たちが集まって、話し合いをしながら、公園センターで行う活動や体験プログラムのルールを決めていくのが良い。

（３）体験プログラム

- ・この場所でやるべき体験プログラムはどのようなものかガイドラインが必要である。検討にあたっては、「本物」、「仙台らしさ」、ここに来ないと体験できないという視点が大切である。
- ・インバウンドに対しては、茶道や書道、料理体験に加えて、自分でお茶を点てる、着物を着て写真撮影をするなど、「本物」を体験できることが重要である。
- ・民間事業者や市民活動団体の様々な視点から、個性あるプログラムを展開することが重要である。
- ・利用者のニーズは日々変わっていくので、プログラムは固定的でない方が良い。
- ・市民が楽しんでいるものが拡張されて来訪者に伝わり、一緒に楽しめる仕組みがあると良い。

（４）ユニークベニュー

- ・市民の日常的な利用をベースとし、ユニークベニューをどのように展開するかは、市民の使い方や活動を見ながら、考えていくべきである。
- ・歴史ある場所で行うユニークベニューには制限が多いため、公園センターでは制限が無い、応用の利くものとなると良い。
- ・建築が良いと多くの人が集まり、ユニークベニューにもつながると思う。
- ・仙台では古い建物があまり残っておらずユニークベニューとなる建物が少ない。石垣や道の通り方など青葉山全体をユニークベニューの場として捉えることも大切である。
- ・景観と連動したお祭りなどのイベントもユニークベニューとして見せられると良い。
- ・地元産木材などでつくったテーブルや椅子があり、良い景色の中で様々なイベントを開催できると良い。

（５）仙台の歴史・文化発信の工夫

- ・他都市の類似事例から、七夕飾りの展示だけをして、集客するのは難しい。単なる展示ではなく、

この場所ならではの伊達の文化の物語などを通じて、ソフト展開が必要である。

- ・仙台の様々なお祭をメニューとして紹介するには工夫が必要であり、訪れたときにタイムリーにその季節の雰囲気を感じられることも必要である。
- ・お祭りの山車は、本来、町ごとに守って、ハレの日に誇示するように引きながら練り歩くものである。それが仙台城跡の一角に展示されることには違和感がある。
- ・昔の山車を復元して展示すると歴史的な意味が伝わると思う。
- ・お祭り紹介の展示については、歴史的経緯などを踏まえ、その内容について専門機関と十分検討を行うべきである。
- ・お祭りの展示や踊りの体験は、公園センター以外にも、国際センター駅やメディアテークなどでの展開も考えられる。

3. 施設について

(1) 基本的な考え方

- ・市民が誇りを持って案内できる場所となることが大切である。
- ・将来の仙台市民にとっても誇りとなるような整備をすべきである。
- ・大橋から見た青葉山公園が、仙台を象徴するという考え方は大切である。
- ・大橋の下を流れる広瀬川は、武家文化と庶民生活の境でもあり、青葉山公園の整備によって仙台城下の全体イメージとしてクリアになると、市民も来訪者も仙台の街をよりイメージしやすくなると思う。
- ・片倉屋敷の復元ができないのであれば、山の上に仙台城があつて、ふもとに屋敷があるという配置の関係性、作法をしっかりと意識して残すという歴史的な解釈をしながら、公園として必要なエントランスとしての機能を盛り込むべきである。
- ・山の上を「非日常」、山の下を「日常」と捉え、公園センターが中間地点として、気持が切り変わるような場所となると良い。
- ・本丸地区からの眺望が良くなると、仙台城と広瀬川をつなぐ公園センターの役割がよりわかりやすくなると思う。
- ・外国人が求める日本らしさと日本人が考える日本らしさは異なるため、双方に受け入れられるような施設となるべきである。

(2) 文化財の視点

- ・追廻地区の広瀬川沿いの石垣までが仙台城の範囲であり、公園センターの整備にあたっては、遺構と石垣の保存をしっかりと行う必要がある。
- ・将来、発掘調査が行われていない広場や庭になる部分については、地下に及ぶ工事により遺構を壊すことがないように注意が必要である。
- ・片倉屋敷復元は選択肢として無い。将来、高度な発掘技術により、新たな成果が得られたら、きち

んと復元すると良い。

- ・現在提案されている公園センターの機能、特に大型の山車の展示や交流スペースの設置などを考えても、片倉屋敷の復元、及び復元に近い整備は難しいと思う。
- ・過去に屋敷があった場所に、それらしい建物が建つと復元されたものと誤解されることがあるので注意が必要である。
- ・「調和」や「歴史風」という言葉は、捉え方が様々で正解が無い。また、その言葉に縛られてありもしない物が作られることもあるので注意が必要である。
- ・仙台城は青葉山を利用した山城であるという歴史認識も踏まえ、樹木のある景観に留意すべきである。

(3) デザインの考え方

- ・建物だけではなく、空間を一体的にデザインし、遠景としてのデザイン、近づいたときの切り取られたシーン及び素材の質感など総合的に検討することが必要である。
- ・追廻地区全体の中でゆったりと空間を使い、シンプルなゾーニングをすべきである。
- ・公園整備では、機能や施設として色々詰め込まず、「何もないこと」、「何かをできるようにしておくこと」も大切である。
- ・整備にあたっては、自由に利用できる空間とそうでない空間の切り分けをすべきである。
- ・大橋は、デザインと、ここを渡ると青葉山と感じられるゲート性が素晴らしく、橋詰に広がる空間として、大橋と一体的にデザインすることが重要である。
- ・建物の北側と東側が公園センターの顔となる場所であり、来訪者が最初に訪れる建物北側のデザインを工夫することと、広瀬川の石垣の見せ方を含め大橋から公園センターへの誘導、登城路への誘導等の動線を整理することが大切である。
- ・シンボルとなる花など、四季折々の自然を感じられる空間とすべきである。
- ・樹木が少なくオープンなスペースがあるのに、樹木を植えて日本庭園をつくるのはあまり良くないと思う。
- ・日本をアピールすることに特化した大きな日本庭園ではなく、ちょっとした添景として整備するだけで良い。
- ・追廻地区は開けた広い空間であり、視覚的、空間利用の手がかりとなるように植栽を配置することが大切である。屋敷林があったという史実があれば、原風景として植栽して育てて行くのも良い。
- ・片倉屋敷の屋敷林を再現すると、「杜の都」の由来を伝えることができる。市民と連携して屋敷林のある生活も再現できると良い。
- ・周辺の歴史性を重視した整備が大切である。片倉屋敷の復元が難しいことと歴史性を重視した整備とは別のことで、現代でも工夫して整備は可能だと思う。
- ・機能重視の近代的な建物ではなく、昔と現代が繋がり、融合された建物とすべきである。
- ・片倉家の紋をデザインに取り入れるなど、内装に仙台平（せんだいひら）や仙台堆朱（せんだいつ

いしゅ)などの仙台の伝統工芸品を取り込むなどの工夫が考えられる。

(4) 見え方のデザイン

- ・大橋をメインアプローチと捉え、青葉山へ続く風景の連続性を意識し、大橋からの景観を重視して整備すべきである。
- ・広瀬川沿道から見た青葉山という視点場も意識すべきである。
- ・城下町のエリアと通常立ち入ることができないお城のエリアがあったという町の構造を意識できるように視点場での見え方を設定すると良い。そのような町の構造を体験プログラムでもストーリーとして生かしていくべきである。
- ・車、徒歩、自転車など多様な公園アクセスに応じたこの場所の風景づくりが重要である。

(5) 広瀬川との関係

- ・公園センター予定地からは、広瀬川が見えないため、広瀬川が感じられるようなデザインの工夫が必要である。
- ・広瀬川へのアクセスを確保し、川の自然観察や大橋の遺構等の地域的な特徴も観察できると良い。
- ・建物を広瀬川に近づけられるのであれば、より川側に配置し、カフェだけを分棟にして、川側に配置しても良い。

(6) 設計の進め方

- ・設計のプロセスをオープンにし、様々な議論をして、それが設計に反映されていくと、期待が高まり、市民のプライドとなるような公園センターとなると思う。
- ・ランドスケープと建築を一体的にデザインし、そのデザインを将来、青葉山公園全体のエリアマネジメントに繋げるべきである。
- ・良い建築家が選定されれば、この場所の歴史的な意味をきちんと読み取り、様々な要望についても解決し、現代的な技術を使ってふさわしい建築を行うことができると思う。
- ・仙台市が示す方向性をもとに、設計者の創造力が発揮できる方法とすべきである。

4. 運営、名称など

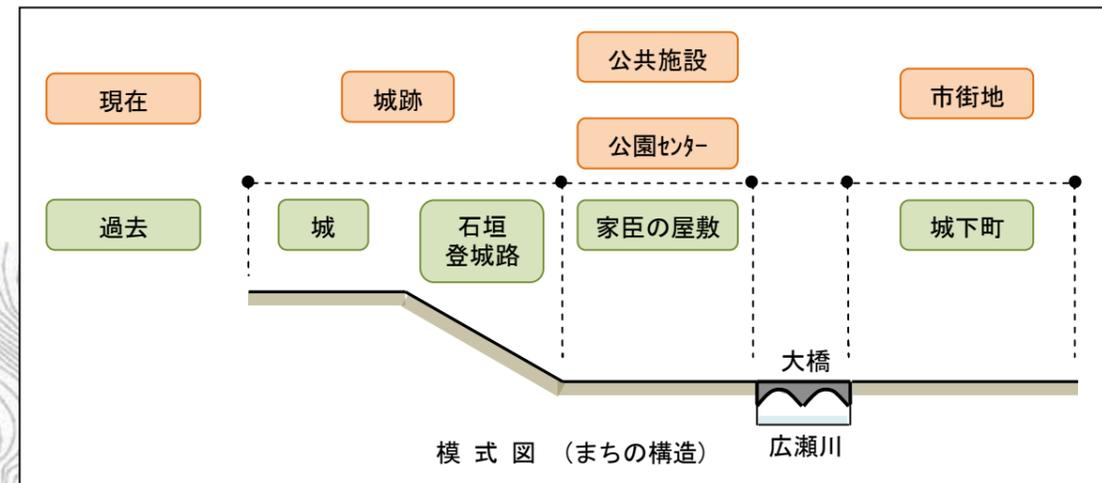
- ・民間事業者の運営への参画など官民連携は当然の考え方である。
- ・広瀬川も青葉山公園と捉えることが大切であり、河川管理者との官官連携も必要である。
- ・青葉山公園の関係者による運営協議会などで、公園のマネジメント等の検討をすると良い。西公園や東北大キャンパスなども含めた広いエリアを対象とした市民も期待できるマスタープランと運営協議会があると良い。現在、都市公園法により協議会の法定化も検討されている。
- ・公園センターの機能にふさわしい名前があると良い。コンセプトのとおり「エントランス」というニュアンスが含まれると良い。検討の方法としては、子どもたちに公募することや、施設が完成し

た後に公募することも考えられる。また、愛称の公募も検討すると良い。

- 市民と一緒に進める開かれた取組みを、ホームページや SNS でもっと市民に発信すると良い。
- 仙台市博物館の企画展開催時には、付近の道路が渋滞する。駐車場の確保について、実情を踏まえて柔軟に対応が必要である。

余 白

「3. 施設について」 補足資料



◇ 仙台市民が誇りを持って案内できる場所
 ◇ 将来の仙台市民の誇りとなるような場所

◇ 本丸地区からの眺望が良くなると、仙台城と広瀬川をつなぐ公園センターの役割がよりわかりやすくなる

◇ 文化財調査結果や公園センターの機能から、片倉屋敷の復元は難しい
 ◇ 屋敷があった場所に、それらしい建物が建つと誤解を招く
 ◇ 「調和」や「歴史風」という言葉からのデザイン化は、注意が必要
 ◇ 周辺の歴史性を重視した整備
 ◇ 昔と現代が繋がり、融合された建物
 ◇ 仙台の伝統工芸品を取り込むなどの工夫

◇ アプローチの受けとなる空間デザイン

◇ 登城路への誘導

◇ 大橋の橋詰として、大橋と一体的な空間デザイン
 ◇ 大橋から公園センターへの誘導 (動線整理)

◇ 大橋からの景観、青葉山へ続く風景の連続性を重視
 ◇ 大橋から見た青葉山公園が、仙台を象徴する

◇ ゆったりと空間を使う、シンプルなゾーニング
 ◇ 自由に利用できる空間と制約のある空間の切り分け
 ◇ 建物と空間の一体的デザイン
 ◇ 遠景、近景、素材の質感などの総合的検討
 ◇ 開けた広い空間に、空間利用の手がかりとなるような植栽配置
 ◇ 片倉屋敷の屋敷林の再現により、「杜の都」の由来を伝える
 ◇ オープンなスペースに、樹木を植えて日本庭園をつくるのは良くない
 ◇ 日本のアピールに特化した大きな日本庭園ではなく、添景として整備
 ◇ シンボルとなる花など、四季折々の自然を感じられる空間整備
 ◇ 「何もないこと」「何かをできるようにしておく」余地も大切

◇ 石垣の見え方の工夫



◇ 建物から広瀬川が見えないため、広瀬川が感じられるような工夫
 ◇ 広瀬川沿道から見た青葉山への景観に留意
 ◇ 広瀬川へのアクセス確保
 ◇ 広瀬川に寄せた建物の配置検討



◇ 車、徒歩、自転車等のアクセスに応じた風景づくり

卷末資料

青葉山公園（仮称）公園センターの整備に関する懇話会委員名簿

所属・役職	氏名
株式会社JTBグローバルマーケティング&トラベル 営業企画部地域交流推進部長	阿部 昌孝
株式会社ゆいネット 代表取締役 株式会社たびむすび 代表取締役	稲葉 雅子
東北大学大学院文学研究科・文学部 准教授	籠橋 俊光
筑波大学芸術系 教授	黒田 乃生
公益財団法人仙台観光国際協会観光事業部観光事業推進課長	齋藤 勝也
特定非営利活動法人都市デザインワークス 代表理事	榑原 進
株式会社ラフ・アソシエイツ 代表取締役	鈴木 未来
宮城学院女子大学現代ビジネス学部 教授	宮原 育子 ○
東北大学大学院工学研究科 准教授	本江 正茂 ◎
国土交通省東北地方整備局東北国営公園事務所 所長	脇坂 隆一
東北芸術工科大学デザイン工学部建築・環境デザイン学科 准教授	渡部 桂

※50 音順・敬称略 ※◎座長 ○座長代理

懇話会資料

第 1 回懇話会資料

資料①	青葉山公園（仮称）公園センターの整備に関する懇話会設置要綱……………	19
資料②	懇話会の運営について（案）……………	20
資料③	懇話会の進め方について……………	23
資料④	青葉山公園（仮称）公園センターの計画について……………	25

青葉山公園（仮称）公園センターの整備に関する懇話会設置要綱

（平成 28 年 4 月 26 日市長決裁）

（設置）

第 1 条 青葉山公園（仮称）公園センターの整備について、有識者等の意見を聴取し、青葉山公園（仮称）公園センター基本計画に反映させていくことを目的として、「青葉山公園（仮称）公園センターの整備に関する懇話会」（以下「懇話会」という。）を設置する。

（所掌事務）

第 2 条 懇話会は、次に掲げる事項について検討を行い、市長に意見を述べるものとする。

- (1) 青葉山公園（仮称）公園センターの位置付けに関する事
- (2) 青葉山公園（仮称）公園センターにおける施設整備の具体的な構想に関する事
- (3) 青葉山公園（仮称）公園センターの利活用の方針に関する事
- (4) その他青葉山公園（仮称）公園センターの整備に係る必要な事項に関する事

（組織）

第 3 条 懇話会の委員は、学識経験者、市民その他市長が必要と認める者のうちから、市長が委嘱する。

2 委員の任期は、委嘱の日から懇話会の解散の日までとする。

（座長）

第 4 条 懇話会に、座長及び座長代理を置く。

2 座長は、委員の互選によって定め、座長代理は、座長の指名する者をもって充てる。

3 座長は、会務を総理し、懇話会を代表する。

4 座長代理は、座長を補佐し、座長に事故があるとき又は座長が欠けたときは、その職務を代理する。

（解散）

第 5 条 懇話会は、その任務を終了したときに解散するものとする。

（庶務）

第 6 条 懇話会の庶務は、建設局百年の杜推進部公園課において処理する。

（委任）

第 7 条 この要綱に定めるもののほか、懇話会の運営に関し必要な事項は、座長が懇話会に諮って定める。

附 則

（実施期日）

1 この要綱は、平成 28 年 4 月 26 日から実施する。

（この要綱の失効）

2 この要綱は、懇話会の解散の日限り、その効力を失う。

懇話会の運営について(案)

1. 会議の公開について

仙台市では、市政運営における透明性の向上を図り、開かれた市政を推進する趣旨から、本懇話会のような附属機関等の会議においては、「附属機関等の設置及び運営の基準に関する要綱」「附属機関等の会議の公開に関する取扱い要領」等を定め、市民の皆様に対し審議等の状況を明らかにする目的から会議を公開している。

会議の公開・非公開はそれぞれの附属機関等において決定することになっており、本懇話会については、個人情報等、特に非公開とする理由がないことから、原則として会議を公開とする。

(参考)

「附属機関等の設置及び運営の基準に関する要綱」

(附属機関等の運営等)

第4条 附属機関等の運営については、次の事項に留意し、適正かつ効率的にこれを行うものとする。

(1) (略)

(2) 会議の公開・非公開は、当該附属機関等において決定すること。その場合において、次のいずれかに該当する場合を除き、公開するものとする。

ア. 仙台市情報公開条例(平成12年仙台市条例第80号)第7条各号に掲げる情報を扱う場合

イ. その他非公開とすることに相当の理由がある場合

(後略)

仙台市情報公開条例第7条において非公開とすべき情報とは

- ・法令により公開することができないとされている情報
- ・個人に関する情報
- ・法人等の正当な利益を害するおそれがある情報
- ・人の生命の保護や犯罪の予防等に支障が生ずるおそれがある情報
- ・市や国等の審議、検討又は協議が適正に行われなくなるおそれがある情報
- ・市や国等の事務事業の適正な遂行に支障を及ぼすおそれがある情報

【公開の方法】

- ①会議の公開は、会議の傍聴を認めることにより行う。
- ②傍聴者の定員を10名程度とする。
- ③傍聴希望者が定員を超えた場合は先着順により決定する（傍聴希望者が定員を超えた場合で、傍聴希望者が会議資料又は傍聴席が無いことを了解した場合は、可能な範囲で傍聴を認めるよう努めるものとする）。
- ④会議が公正かつ円滑に行われるよう傍聴に係る遵守事項を別紙のとおり定める。
- ⑤公開した会議の会議録写し及び資料を市政情報センター及び区情報センター並びに仙台市ホームページにおいて閲覧に供する。

2. 会議録について

懇話会の会議録は、事務局である百年の杜推進部において作成する。委員全員の署名に代えて、協議会開催の都度、座長及び座長が指名する委員1名の計2名が署名することとする。

会議の傍聴に際し、守っていただきたい事項

青葉山公園（仮称）公園センターの整備に関する懇話会

会議の円滑な運営を図るため、会場では以下の事項を守って下さい。

- 1 会議中は、静かに傍聴し、拍手をしたり発言する等会議の進行を妨げるような行為をしないこと
- 2 はち巻、腕章の類をする等示威的な行為をしないこと
- 3 飲食又は喫煙をしないこと
- 4 写真撮影、録画、録音等を行う場合は、事前に事務局に申し出ること。
ただし、議事が始まってからはストロボ、照明等は使用しないこと
- 5 他の傍聴人の迷惑になるような行為を行わないこと
- 6 その他、会場の秩序を乱し、又は会議を妨害するような行為をしないこと
- 7 係員から指示があった場合は、速やかに従うこと

※ 以上の事項に違反した場合は、退場していただく場合があります。

懇話会の進め方について

1. 設置の趣旨

青葉山公園は、仙台の礎である仙台城跡を含む青葉山と広瀬川に囲まれた区域について、藩政時代からの歴史的・文化的資源やすぐれた自然景観を生かしながら、市民や仙台を訪れた人が親しむことのできる杜の都のシンボルとなる公園を目指しています。

(仮称)公園センターは、その主要な施設として「ビジターセンターとしての機能のほか、青葉山公園の玄関口という立地特性や藩政時代からの歴史性を踏まえた仙台の歴史・文化を発信する場」として位置づけております。今後、(仮称)公園センターを整備するにあたり、その位置づけ等に鑑み、幅広い市民の理解を得ることのできるよう、様々な専門の学識経験者等からご意見をいただくため、本懇話会を設置するものです。

2. 懇話会の進め方

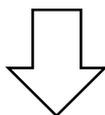
懇話会では、上位計画や関連計画の中でまとめられた、施設の役割や整備などの基本的な方向性をもとに、(仮称)公園センターの施設の内容や提供サービス、建物のデザインなど、実現に向けたより具体的なご意見、ご議論をいただき検討するものです。

本市は、懇話会での意見等を取りまとめ、(仮称)公園センターの計画に反映させるものとしします。

(懇話会)

実現に向けた施設の内容やサービス、
建物のデザインなど 具体的な意見

- ① 意見の聴取
- ② 意見の整理
- ③ 懇話会意見とりまとめ



(仙台市)

計画の策定

3. 懇話会での検討事項

- (1) (仮称) 公園センターの機能と内容について
インフォメーション・ガイダンスなどの機能や、歴史解説や周辺観光案内、飲食施設などの具体的な内容
- (2) 整備イメージについて
立地特性や歴史性を踏まえた建物外観や景観に調和した整備イメージ
- (3) 運営の手法について
民間活力の導入と事業者や市民活動団体との連携
- (4) その他
(仮称) 公園センターの整備にあたって配慮する事項等

4. スケジュール

- 第1回懇話会 〈6月1日(水) 16:00〜〉
- ・ 懇話会について (資料説明)
(設立趣旨、運営、検討の進め方、スケジュール等)
 - ・ (仮称) 公園センターの計画について (資料説明)
 - ・ (仮称) 公園センターの役割と施設内容について① (意見交換)
(概念、役割についての感想、施設内容に関する全体意見)
- 第2回懇話会 〈7月上旬〉
- ・ (仮称) 公園センターの役割と施設内容について② (意見交換)
(施設内容に関する意見)
 - ・ 立地特性や歴史性を踏まえた外観と景観に調和した整備イメージについて① (意見交換)
 - ・ 民間活力の導入と事業者や市民活動団体との連携について① (意見交換)
(民間資本の活用、事業運営の手法、ガイドボランティア等市民活動団体との連携)
- 第3回懇話会 〈9月上旬〉
- ・ 立地特性や歴史性を踏まえた外観と景観に調和した整備イメージについて② (意見交換)
 - ・ 民間活力の導入と事業者や市民活動団体との連携について② (意見交換)
- 第4回懇話会 〈10月中旬〉
- ・ 議論のふりかえりと意見整理 (資料説明)
 - ・ 懇話会意見のとりまとめ (意見交換)

〈参考〉(仮称) 公園センターの整備スケジュール

平成32年度完成予定

青葉山公園（仮称）公園センターの計画について

青葉山公園（仮称）公園センターの整備に関する懇話会

説明の流れ

1. 青葉山公園について
2. （仮称）公園センターの計画の前提条件について
3. （仮称）公園センターの計画の概要について

平成28年6月1日（水）
仙台市建設局百年の杜推進部公園課

1. 青葉山公園について

1. 青葉山公園について
2. （仮称）公園センターの計画の前提条件について
3. （仮称）公園センターの計画の概要について

(1) 青葉山公園の概要

○面積

- ・計画面積：50.3ha

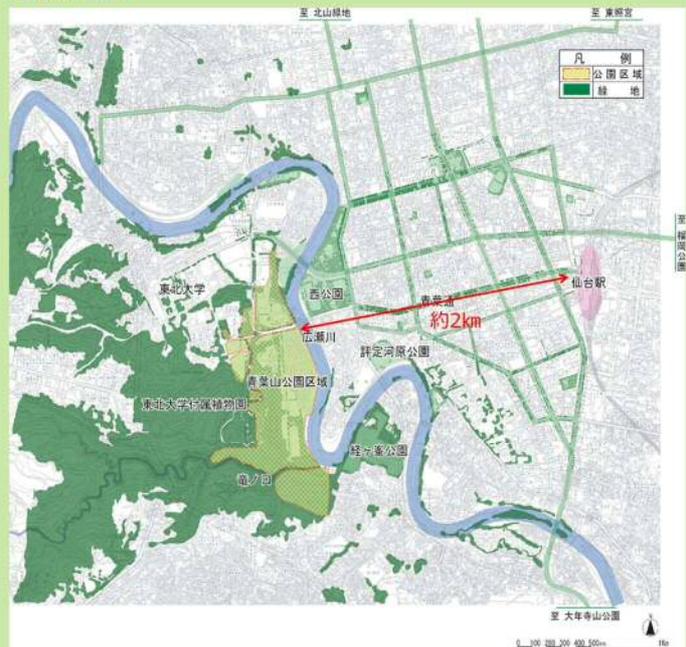
○主な施設

- ・仙台城跡本丸広場
- ・仙台市博物館
- ・仙台国際センター
- ・テニスコート

○変遷

- ・慶長 5年 伊達政宗が仙台城の築城を始める
- ・明治以降 旧陸軍の司令部が置かれ、軍の施設が集中
- ・昭和20年 追廻地区で応急簡易住宅（約600戸）の整備が始まる
- ・昭和21年 「仙台総合運動場」として都市計画決定（計画面積約22.5ha）
- ・昭和28年 都市公園として開園
- ・平成15年 国史跡指定「仙台城跡」
- ・平成16年 本丸北壁石垣修復完成
- ・平成27年 地下鉄東西線開業

○公園位置図



(2) 青葉山公園整備基本計画 ①

○基本目標

青葉山公園は、仙台の礎である仙台城跡を含む青葉山と広瀬川に囲まれた区域について、藩政時代からの歴史的・文化的資源や優れた自然景観を生かしながら、市民や仙台を訪れた人が親しむことのできる杜の都のシンボルとなる公園として整備する。

(2) 青葉山公園整備基本計画 ②

○空間構成

歴史文化ゾーン

本丸跡の遺構等を保全するとともに、水堀の再生や土塁の顕在化による歴史的な景観を充実させ、歴史と文化が堪能できる空間



自然散策ゾーン

広瀬川や滝ノ口等豊かな自然が残る貴重な周辺環境を生かした自然散策を行える空間

いこい・にぎわいゾーン

広瀬川、本丸跡の眺望など、広がりや奥行きのある空間を展開し、活動の場としても機能する空間

交流ゾーン

地下鉄東西線国際センター駅からの公園の玄関口として、来訪者の交流の場としての機能を持つ空間

(2) 青葉山公園整備基本計画 ③

○基本計画図



1. 青葉山公園について
2. (仮称) 公園センターの計画の前提条件について
3. (仮称) 公園センターの計画の概要について

(1) 現況



写真① 長沼近辺から広瀬川方向



写真② 広瀬川河畔から対岸方向



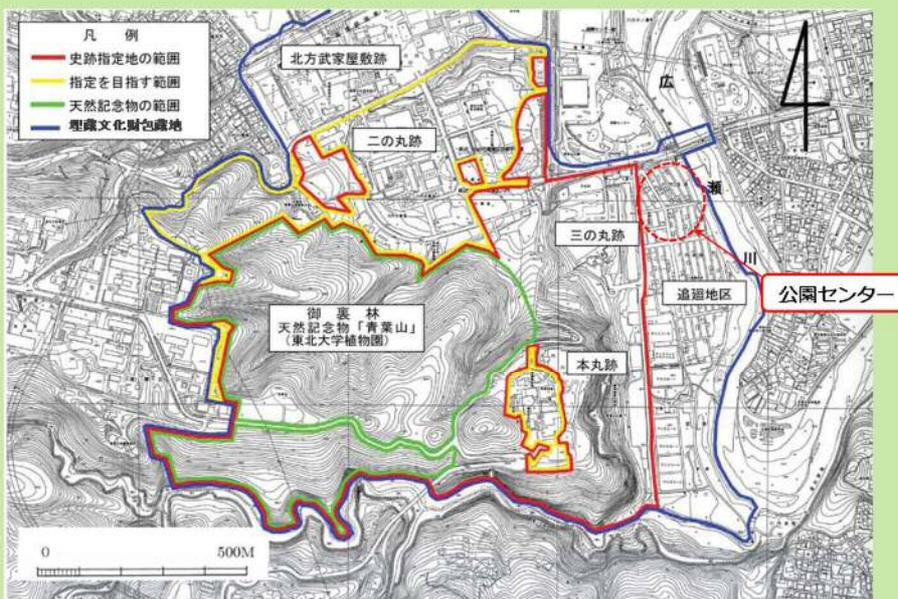
写真③ 広瀬川近辺から長沼方向



写真④ 大橋から広瀬川右岸方向

(2) 文化財 ①

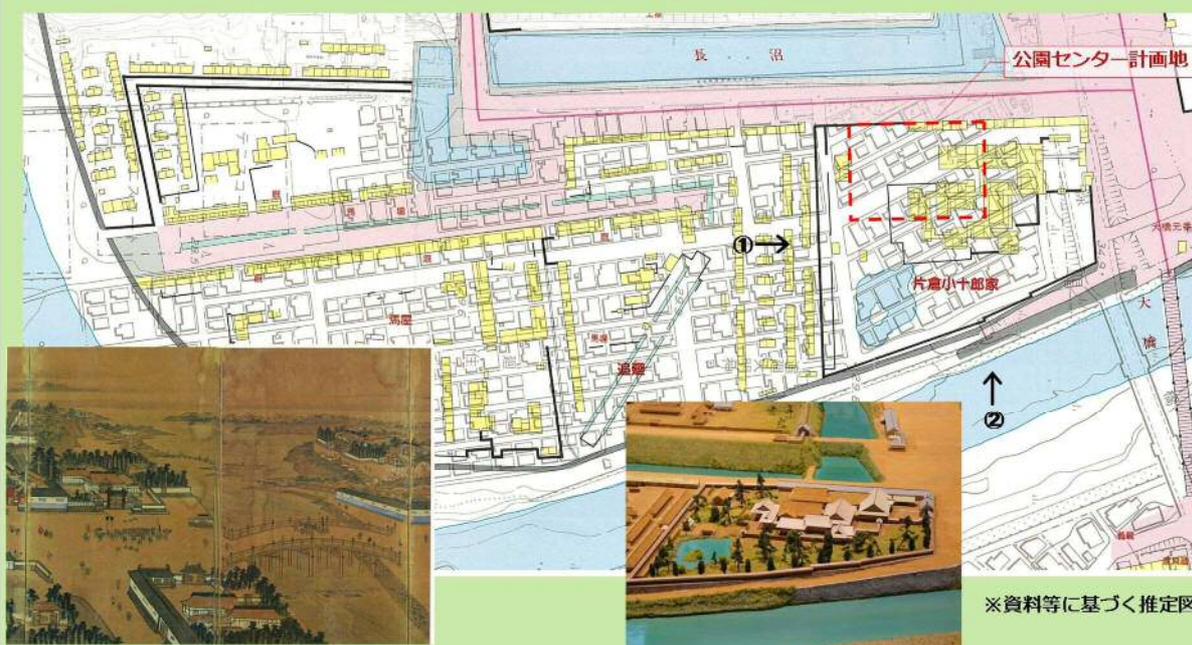
公園センター計画地は 国指定史跡「仙台城跡」に隣接し、埋蔵文化財包蔵地に登録



9

(2) 文化財 ②

公園センター計画地は、伊達家の重臣 片倉小十郎屋敷があったとされる場所



図① 慶応元年仙台下図屏風 (第四・第五扇)

図② 仙台市博物館の模型 (片倉小十郎屋敷)

10

2. (仮称) 公園センターの計画の前提条件について

(2) 文化財 ③

【埋蔵文化財包蔵地（文化財保護法）】

施設整備などの開発に際しては、事前に発掘調査を行い、保存を図ることが必要
平成24年度～26年度 遺構確認調査の実施



遺構の保護

- 現在の地盤に盛土を行い、建物の基礎を盛土内に収める。
- 建物は必要最低限の規模で、屋敷の主要部分があったとされる北側を極力避けて配置する。

11

2. (仮称) 公園センターの計画の前提条件について

(3) 関連計画における位置づけ ①

地下鉄東西線 (仮称) 国際センター駅周辺整備の基本的方向性 (平成24年1月)

国際センター駅周辺の整備にあたっては、次の三つの機能強化を図っていく

観光交流機能

- ・既存の観光資源の魅力向上と新たな観光資源の創出
- ・回遊ルートの形成、インフォメーション機能の整備
- ・利便施設（休憩・飲食、物販等）の充実
- ・ビジターだけでなく、多くの市民が日常的に集い、憩い、楽しむことのできる環境の整備

ミュージアム機能

- ・地区全体が一つのミュージアム空間となるような環境整備
- ・東北の歴史・文化など多様な魅力を発信
- ・「体験」「創作」「表現」など市民の創造的な活動や交流の拠点
- ・仙台の歴史、文化等に関する総合的な情報発信

コンベンション機能

- ・学会等の大規模コンベンション需要への対応能力の拡大
- ・コンベンションの積極的誘致により、仙台・東北の復興を国内外に発信
- ・“おもてなし”も含めたコンベンション受け入れ環境を整備

公園センターに関わる 機能強化の方向性

仙台国際センター
東北大学萩ホール
国際センター駅上部空間

12

2. (仮称) 公園センターの計画の前提条件について

(3) 関連計画における位置づけ ②

青葉山公園整備基本計画（平成25年3月）

◎ 青葉山公園、仙台城跡方面への玄関口にふさわしい、来訪者に向けた「社の都・仙台の歴史・文化の発信」

- ・ビジターセンターとしての機能をベースとしつつ、青葉山公園の玄関口という立地特性や、藩政時代からの歴史性も踏まえた、仙台の歴史、文化の発信

<整備イメージ図>



13

2. (仮称) 公園センターの計画の前提条件について

(4) 計画地へのアクセス、公園内動線



【地下鉄、るーぶる仙台】

- ・仙台駅から地下鉄東西線やるーぶる仙台を利用して、仙台城本丸跡や博物館に向かう最短ルート上に位置し、立ち寄りやすい場所

【乗用車・観光バス】

- ・乗用車や観光バスが大橋を経由して来園する主要ルートに隣接

【公園内動線】

- ・青葉山公園の歴史を楽しむ動線の起点、自然を楽しむ動線の起点

14

(5) 周辺施設の現況



- ・ 特定の目的を持って訪れる仙台市博物館、仙台国際センターなどの文化施設が集まっている
- ・ 気軽に立ち寄り、日常的に利用できる施設が少ない

15

(6) 市政モニターアンケートなど

市政モニターアンケート

(平成27年度

みどりの市民意識調査)

市政モニター 192名

市民活動団体ヒアリング

青葉山に関連する活動団体
歴史ガイド、広瀬川ガイドなど

民間事業者アンケート

飲食サービス、コンビニエンス
ストア、施設運営、旅行事業など

- ・ 来訪者がゆっくりする、くつろぐという視点を重視
- ・ 周辺案内や歴史解説等の情報提供
- ・ 周遊拠点、出発点としての機能
- ・ 気軽に利用できる飲食施設の整備
- ・ 広瀬川との連携や、広瀬川の景観を活かした機能
- ・ 建物だけではなく、広場や外構など周辺の利用を含めた機能
- ・ 市民活動団体との連携
- ・ 観光、散策時の休憩場所の整備

16

1. 青葉山公園について
2. (仮称) 公園センターの計画の前提条件について
3. (仮称) 公園センターの計画の概要について

17

(1) 公園センターの役割

国際センター駅周辺地区の **観光交流機能、ミュージアム機能** を高め、ビジターだけでなく多くの市民が日常的に**憩い・楽しみ・集う**ことができる環境を整備する

特徴的な役割

- ◎ 広瀬川を身近に感じる、心やわらぐ憩いの場を創出
("気軽"に立ち寄れる "落ち着いた" 雰囲気)
- ◎ 歴史的風情と自然が感じられる"おもてなし"の場を創出
- ◎ 青葉山周辺の市民活動と連携し、ガイドウォークやイベントを充実
- ◎ 市民や観光客が共に楽しく交流する場を提供

▶▶▶ 憩い

▶▶▶ 楽しみ

▶▶▶ 集い

補完的な役割

- ◎ 仙台の歴史を身近に学び、歴史を知るきっかけをつくる
"めぐり"の起点 (仙台城跡, 博物館など)
- ◎ 体験・創作・表現により、仙台の文化を発信

▶▶▶ 楽しみ

▶▶▶ 楽しみ・集い

18

(2) コンセプト

仙台・青葉山を身近に感じ、多様な交流を育む

都市部に近く、青葉山と広瀬川に囲まれた自然豊かな環境の中で、ゆったりとした時の流れに身をおきながら **憩い・楽しみ・集い**、多様な交流を育む

藩政時代に培われた歴史性と現代をバランスよくエリア全体に反映させることで、市民と観光客にとって魅力的な公園センターをめざす

憩い

楽しみ

集い

公園センターの施設検討

19

(3) 施設整備の基本的な考え方

建物だけではなく、広場や外構などの周辺利用を含めた機能展開を図る

- 青葉山公園の玄関口として歴史・文化を発信
- 魅力的な外観で立ち寄りたくなるような施設
- 市民、観光客など様々な人が利用でき、憩い・楽しみ・集うことができる施設
- ユニバーサルデザインとインバウンドへ対応
- 歴史、自然、都市部近隣などの立地特性を生かす
- 歴史遺構保全や景観に配慮



20

(4) 施設内容イメージ ① (憩いの空間)

憩い

くつろぎカフェ

青葉山の自然に溶け込むくつろぎといこいのカフェ

- ・来訪者がゆっくりと楽しむことができる心地よいゆとりの空間
- ・屋外テラスやなごみの庭を一望できる開放感
- ・オープンライブラリーを併設し、仙台の文化や歴史を気軽に学べる空間
- ・屋外イベント時のケータリングなどに柔軟に対応できるバックヤード



ホテル伊豆急

なごみの庭

広瀬川のほとりの落ち着いた庭

- ・訪日外国人などを、和の文化でおもてなし (散策、休憩、野点など)
- ・伊達家上屋敷跡の庭園遺構石材を利用するなど



梅小路公園

桜の小径

国際センター駅からつづく広瀬川沿いの桜の小径を、公園センターから自然散策ゾーンにも整備

- ・途中に広瀬川を眺望しながら休憩できる小広場を設置
- ・広瀬川の水辺に降りられる通路を整備



伊達家上屋敷庭園跡

(4) 施設内容イメージ ② (楽しみの空間)

楽しみ

青葉山公園や仙台城跡の入り口にふさわしい、公園や周辺施設の情報提供

青葉山周辺インフォメーション

- ・青葉山公園や周辺施設の見どころや、旬な情報の展示
- ・周辺施設にも興味を持てるような案内や誘導



関西学院人学博物館

ガイドンスホール

- ・青葉山公園、周辺の歴史・文化の解説や集会所 (ガイドボランティアとの連携、エクスカーションなどの起点)
- ・通常時は休憩場所としても利用



黒木城 城彩苑

青葉山歴史ミュージアム

- ・仙台の歴史を体感しながら学べる展示や仙台城跡遺構紹介など、仙台の歴史を知るきっかけづくりの場
- ・仙台市博物館等周辺施設の関連展示



グランフロント大阪 TheLAB

館内インフォメーション

- ・公園センターの施設案内
- ・訪日外国人への対応

(4) 施設内容イメージ ③ (集いの空間)

集い

交流・体験スペース

市民と観光客が親しむことができる交流の場

- ・文化活動、学びの場
(公開講座、すずめ踊り体験など)
- ・イベントやパーティなど交流の場
(ユニークベニュー、物産展などの会場)
- ・市民活動団体の活動の場
(活動拠点・成果の発表)
- ・仙台の四季折々の祭の紹介など
- ・仙台ならではの工芸体験、創作活動(ミニ七夕飾りなど)
- ・緊急時の避難場所としての利用



金沢市民芸術村

※車両乗降エリア

- ・公園センターに直接アクセスできる、タクシー乗降所、バリアフリー、団体バス乗降所、ダテバイクポート、駐輪場を整備

にぎわい広場

- ・来訪者を迎える正面の広場
- ・イベントなどでにぎわう交流の広場



仙台消防博物館

屋外テラス

- ・広瀬川のせせらぎを身近に感じるやすらぎの空間
- ・川面を見渡せる階段状のデッキ
- ・屋内のカフェや広場と一体感のあるオープンテラス
(夜間の営業、ビアガーデンなど)



お台場カフェデッキ

中央広場

- ・パーティーなど屋内外を一体的に利用する交流の広場
- ・隣接する自然散策ゾーンに連続して広がる空間



天王寺公園

(5) 外観イメージ

○ 内部から周辺の豊かな自然を見渡すことができ、外部からは展示や活動の様子がうかがえるようなデザインとする

○ 景観などへの配慮により、平屋建てを基本とする

A案 和風 大屋根1教室



B案 和風 複数授業室



C案 現代風 流線型屋根案



D案 現代風 フラット屋根案



(5) 外観イメージ (鳥瞰図)



第2回懇話会資料

資料① 青葉山公園（仮称）公園センターの計画について……………	39
---------------------------------	----

青葉山公園（仮称）公園センターの計画について

青葉山公園（仮称）公園センターの整備に関する懇話会

説明の流れ

- 1. 第1回 懇話会のふりかえり
- 2. 公園センターの役割と施設内容について
- 3. 整備イメージについて
- 4. 民間活力の導入と事業者や市民活動団体との連携について

平成28年7月19日（火）

仙台市建設局百年の杜推進部公園課

1

第1回 懇話会のふりかえり

1. 第1回 懇話会のふりかえり

- 1) 基本的な考え方
- 2) 施設の内容（歴史・文化財）
- 3) 施設の内容（観光）
- 4) ゾーニングと施設整備
- 5) 事業者と市民の参画

2

(1) 第1回 懇話会の主な意見①

1) 基本的な考え方

- 利用者層のイメージを明確にする
- 機能を詰め込み過ぎない、特徴や説得力のある役割が必要
- 青葉山周辺の他の施設との連携、役割分担
- 青葉山公園の課題からの視点
- 既存施設の魅力を向上させる視点

3

(1) 第1回 懇話会の主な意見②

2) 施設の内容（歴史・文化財）

- 仙台や仙台の歴史の概略がわかるとよい
- 片倉屋敷跡遺構をどのように公開するか、工夫が必要である
- 上屋敷庭園遺構の石材の有効活用
- 藩政時代だけではなく、他の時代の歴史にも目を向けるとよい
- 地理的要素という視点から仙台城築城についてわかるとよい

4

(1) 第1回 懇話会の主な意見③

3) 施設の内容 (観光)

- シンボルとなる花など四季折々の自然を感じられる空間
- ユニークベニューなど、仙台ならではの特征があるおもてなしの空間
- 仙台観光、まち歩きの出発点となるように

5

(1) 第1回 懇話会の主な意見④

4) ゾーニングと施設整備

- 大橋からの見え方、追廻地区全体など広い視野からのゾーニング
- 建物の位置を広瀬川に近づけるとよりよい
- デザインのプロセスが重要
(デザイナーの選定、創造性を発揮してもらう工夫)
- 広瀬川、護岸石垣等など今あるものを主役にした整備
- ゆったりとしたシンプルなゾーニング

6

(1) 第1回 懇話会の主な意見⑤

5) 事業者と市民の参画

- 官民連携と地元事業者の参画
- ボランティアが積極的に関わり、ユーザーであり、サービス提供者でもあるとよい
- 市民活動団体の活躍により、サービス提供の幅が広がる

その他

- 公園センターの機能にふさわしい名称が必要
- 買い物もできるとよい
- テーブルと椅子(地元木材使用など)があるとイベントの幅が広がる
- 市民の日常利用の視点(朝と夜の利用、開放及び閉鎖する場所)

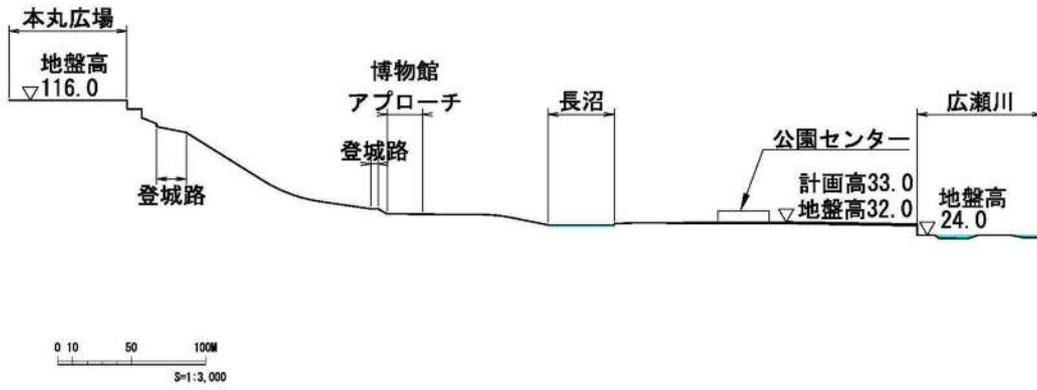
(2) 計画の前提条件について(補足)①

断面図位置図



(2) 計画の前提条件について (補足) ②

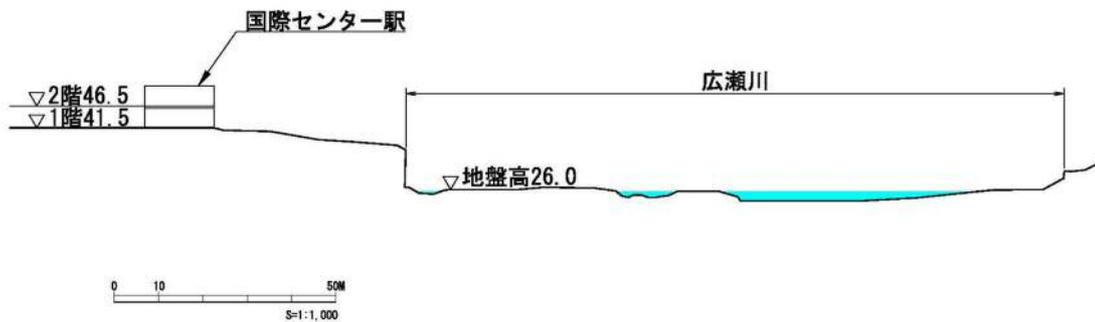
A-A断面



9

(2) 計画の前提条件について (補足) ③

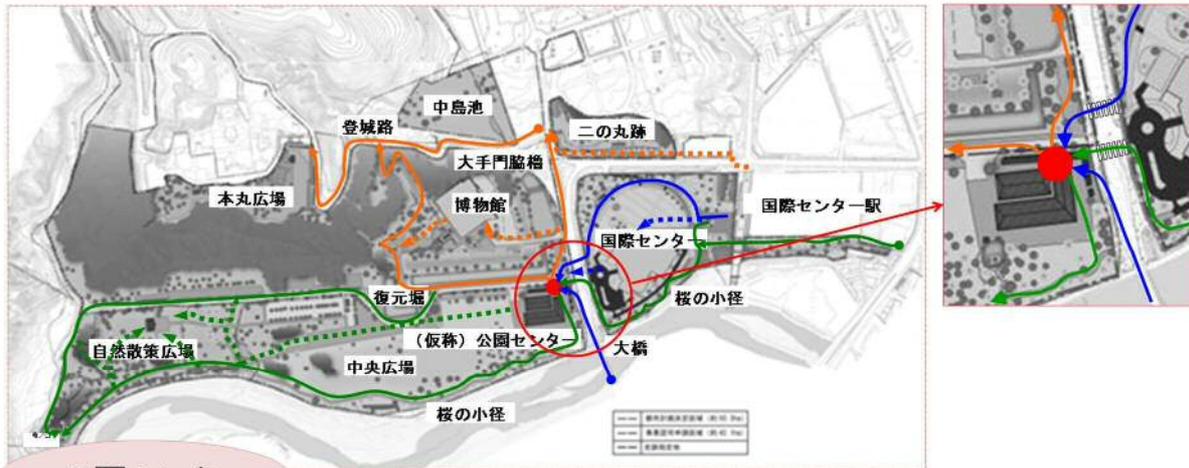
B-B断面



10

(1) 計画の前提条件について (補足) ⑥

公園センターの配置



公園センター

- ①ルート上の起点となる場所に建物を配置
- ②建物と屋外空間の連続性
(建物、屋外テラス、広瀬川)

凡例
 ー メインアプローチ
 ー 歴史を楽しむ動線
 ー 自然を楽しむ動線
 ※細点線：サブ動線

13

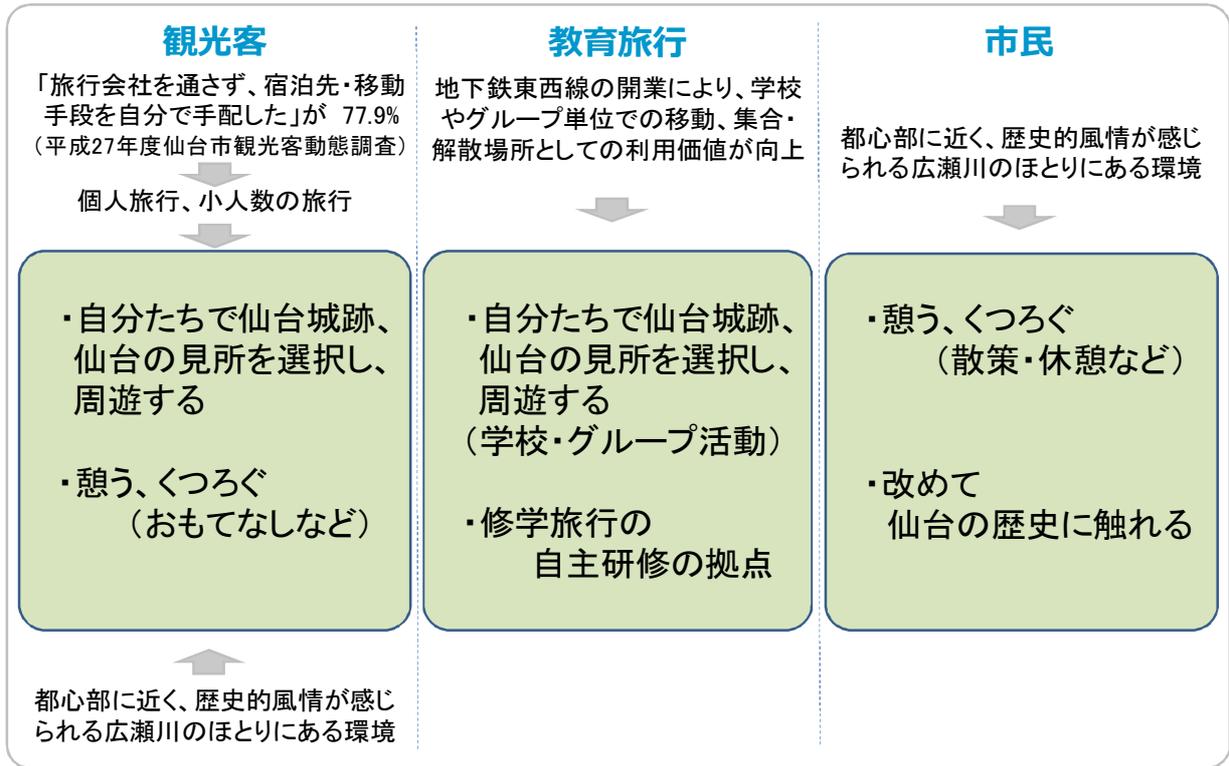
公園センターの役割と施設内容について

1. 第1回 懇話会のふりかえり
2. 公園センターの役割と施設内容について
3. 整備イメージについて
4. 民間活力の導入と事業者や市民活動団体との連携について

14

公園センターの役割と施設内容について

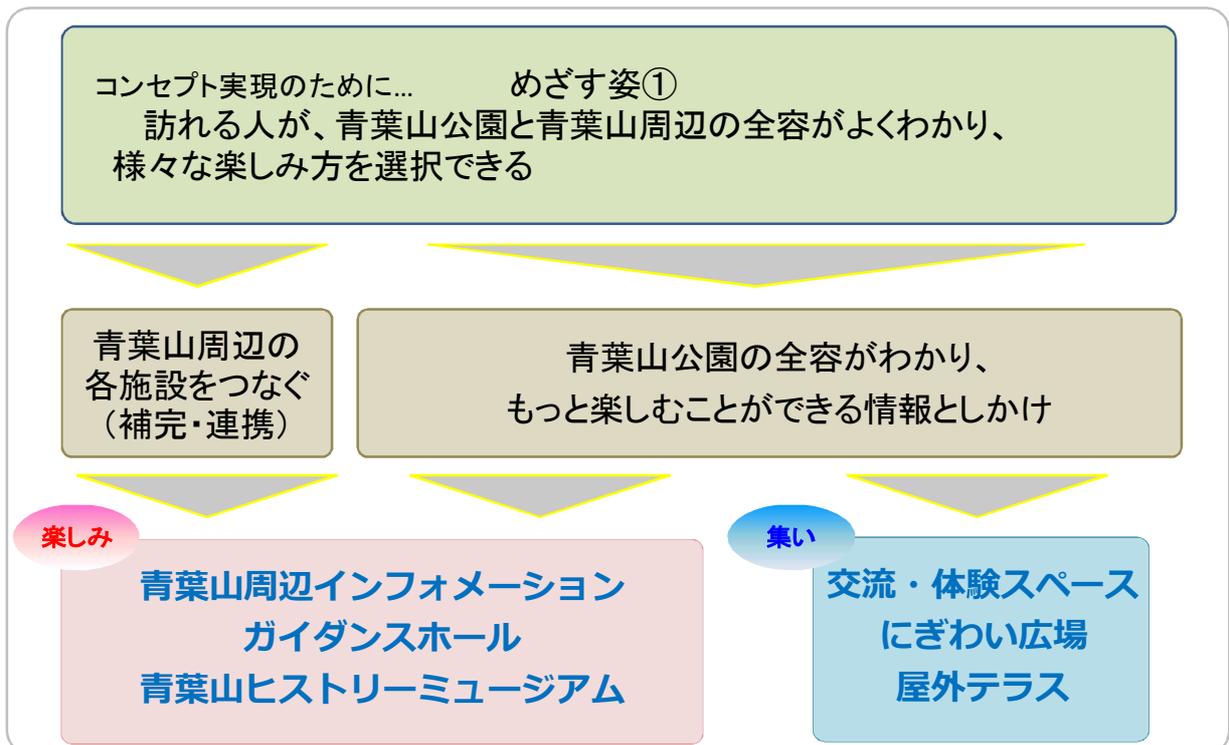
(1) 利用者層のイメージ



15

公園センターの役割と施設内容について

(2) 公園センターの役割・機能①



16

(2) 公園センターの役割・機能②

コンセプト実現のために...

めざす姿②

- ・優れた歴史・文化的資源、自然資源を享受できる
- ・気軽に立ち寄り、日常的に利用できる

憩い、くつろぎの場の創出

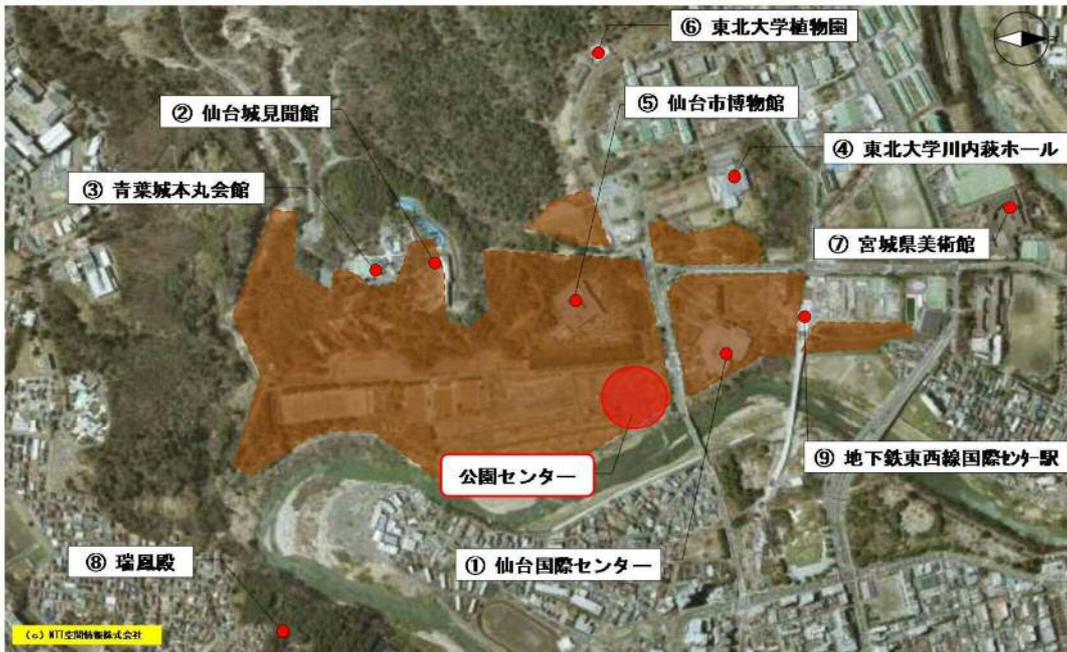
憩い

くつろぎカフェ
なごみの庭
屋外テラス（再掲）

17

(3) 公園センターの施設内容①

1 公園センターの周辺施設



(c) 東日本建設株式会社

18

(3) 公園センターの施設内容②

2 施設内容

楽しみ 青葉山周辺インフォメーション

公園センター

- ・青葉山公園や周辺施設の見どころや、旬な情報の展示
おすすり散策ルート、季節ごとの見どころなど
- ・周辺施設にも興味を持てるような案内や誘導

周辺施設の類似機能

- 【仙台国際センター】
 - ・国際交流や外国人への暮らしに関する情報提供
- 【仙台市博物館】
 - ・情報資料センターの情報提供システム
(収蔵資料や仙台の遺跡などを検索できる端末)
- 【地下鉄東西線国際センター駅】
 - ・周辺の観光案内やイベント紹介

19

(3) 公園センターの施設内容③

2 施設内容

楽しみ ガイダンスホール

公園センター

- ・青葉山公園、周辺の歴史・文化の解説や集合場所
ガイドボランティアとの連携、エクスカーションなどの起点
(通常時)
- ・休憩場所としても利用
散策時に気軽に立寄り、休憩できる

周辺施設の類似機能

- 解説・集合場所
 - 【博物館】
 - ・講義室、エントランス
- 休憩場所
 - ・各施設の飲食店等で休憩

20

(3) 公園センターの施設内容④

2 施設内容

楽しみ 青葉山ヒストリーミュージアム

公園センター

- ・仙台の歴史を知るきっかけづくりの場
仙台城跡遺構紹介 体感しながら学べる展示
(追廻地区の変遷、日本遺産:政宗が育んだ“伊達”な文化)
- ・仙台市博物館など周辺施設の関連展示

周辺施設の類似機能

【仙台市博物館】

- ・旧石器時代から現代までの地域の歴史
- ・伊達家の寄贈資料

【仙台城見聞館】

- ・本丸大広間模型、大広間上段の間再現
- ・城内の遺構及び発掘調査成果

【青葉城本丸会館】

- ・仙台城、仙台藩、伊達家に関する資料 ・シアター
- ・刀剣、具足、調度品、書状など

【瑞鳳殿】

- ・伊達政宗墓室の埋葬品

【東北大学川内萩ホール】

- ・東北大学の史料、研究成果

【東北大学植物園】【宮城県美術館】

21

(3) 公園センターの施設内容⑤

2 施設内容

集い 交流・体験スペース

公園センター

- ・文化活動、学びの場
公開講座、すずめ踊り体験など
- ・イベントやパーティーなどの交流の場
ユニークベニューなど
- ・市民活動団体の活動の場
活動拠点、成果の発表など
- ・仙台の四季折々の祭りの紹介など
- ・仙台ならではの工芸体験、創作活動

周辺施設の類似機能

【仙台国際センター】

- ・各種会議やイベント等を行う会議室、ホール、展示室

【青葉城本丸会館】

- ・会食場

【東北大学川内萩ホール】

- ・演劇などの公演や講演会を行うホール

【仙台市博物館】

- ・展示会等を行うギャラリー、講義室、創作室

【宮城県美術館】

- ・展示会等を行うギャラリー、創作室

【地下鉄東西線国際センター駅】

- ・ワークショップ、ミニコンサート等を行う多目的スペース

22

(3) 公園センターの施設内容⑥

2 施設内容

公園センター

集い

にぎわい広場

- ・来訪者を迎える正面の広場
- ・イベントなどでにぎわう交流の広場

周辺施設の類似機能

- 【国際センター駅南側広場】
 - ・国際センターでの催事と関連したイベント(ケータリングカーなど)
- 【せんだい青葉山交流広場・駐車場】
 - ・全国餃子まつりin仙台(H28年6月)、七夕花火大会の観覧席

23

(3) 公園センターの施設内容⑦

2 施設内容

公園センター

集い

屋外テラス

憩い

- ・広瀬川のせせらぎを身近に感じるやすらぎの空間
- ・川面を見渡せる階段状のデッキ
- ・屋内のカフェや広場と一体感のあるオープンテラス
夜間の営業など

周辺施設の類似機能

- 【地下鉄東西線国際センター駅】
 - ・青葉の風テラス(屋外テラス)
展示会、ミニコンサート、ワークショップ、野外映画上映会など

24

(3) 公園センターの施設内容⑧

2 施設内容

公園センター

憩い

くつろぎカフェ

- ・青葉山の自然に溶け込むくつろぎといこいのカフェ
- ・来訪者がゆっくりと楽しむことができる心地良いゆとりの空間
- ・屋外テラスやなごみの庭を一望できる開放感
- ・オープンライブラリーを併設し、仙台の歴史や文化を気軽に学べる空間

周辺施設の類似機能

- 【仙台国際センター、川内萩ホール、宮城県美術館、仙台市博物館】
・カフェ、洋食
- 【地下鉄東西線国際センター駅】
・カフェ
- 【青葉城本丸会館】
・牛たんレストラン、日本料理、
そば、甘味喫茶

25

(3) 公園センターの施設内容⑨

2 施設内容

公園センター

憩い

なごみの庭

- ・広瀬川のほとりの落ち着いた庭
- ・訪日外国人を和の文化でおもてなし
散策、休憩、野点など
- ・伊達家上屋敷跡の庭園遺構石材の利用など

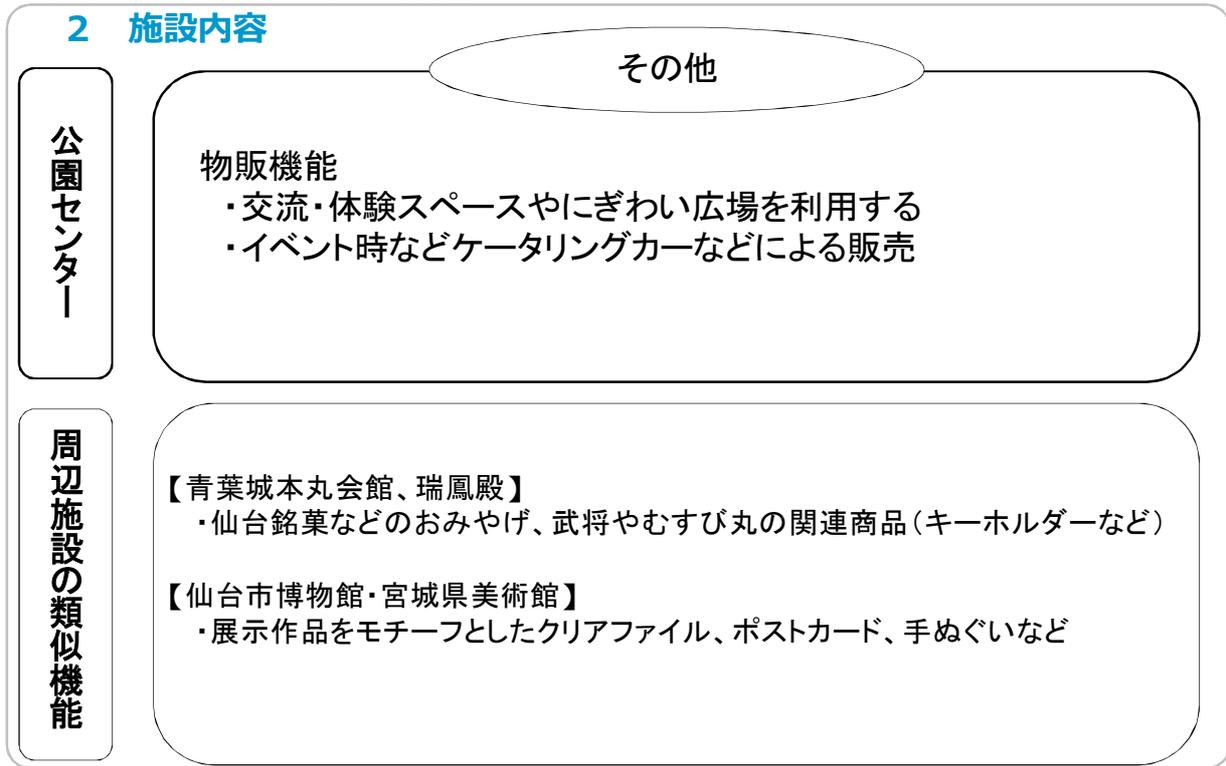
周辺施設の類似機能

- 【青葉山公園の散策路】
・長沼、五色沼、二の丸の散策路
- 【残月亭(博物館敷地内)】
・茶室(仙台市指定文化財:旧姉齒家茶室)と庭
- 【宮城県美術館】
・アリスの庭、北庭など(野外彫刻)

26

(3) 公園センターの施設内容⑩

2 施設内容



27

1. 第1回 懇話会のふりかえり
2. 公園センターの役割と施設内容について
3. 整備イメージについて
4. 民間活力の導入と事業者や市民活動団体との連携について

(2) 事例②

モエレ沼公園（北海道札幌市）ガラスのピラミッド



公園面積：188.8ha
 公園種別：総合公園
 対象建物：5,238㎡（延床）
 レストラン、イサム・ノグチギャラリー、
 彫刻の展示、公園事務所など
 ※「公園全体を一つの彫刻作品とする」
 というコンセプト

(2) 事例③

知床国立公園（北海道羅臼町）羅臼ビジターセンター



公園面積：38,636ha（陸域のみ）
 公園種別：国立公園
 対象建物：831㎡（延床）
 知床の自然、歴史、文化、
 利用に関する展示

(2) 事例④

森 国営アルプスあづみの公園（長野県安曇野市、大町市）



インフォメーションセンター

インフォメーションセンター
（大町・松川地区）



公園面積：353ha
公園種別：国営公園
対象建物：1,237㎡（延床）
園内の情報提供、環境学習
のきっかけとなる展示

33

(2) 事例⑤

城 姫路公園（兵庫県姫路市）家老屋敷館



家老屋敷館



家老屋敷跡公園



公園面積：68.13ha
公園種別：総合公園
対象建物：2,560㎡
（延床）
レストラン、カフェ、
土産物屋

34

(2) 事例⑥

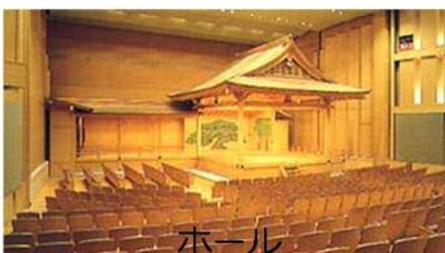
城 伝国の杜（山形県米沢市）米沢市上杉博物館、置賜文化ホール



米沢市上杉博物館、置賜文化ホール



博物館内展示



ホール

対象建物：9,064㎡（延床）
 米沢市上杉博物館
 展示、体験学習、
 ミュージアムショップ
 置賜文化ホール

※松が岬公園（米沢城跡）に隣接

35

民間活力の導入と事業者や市民活動団体との連携について

1. 第1回 懇話会のふりかえり
2. 公園センターの役割と施設内容について
3. 整備イメージについて
4. 民間活力の導入と事業者や市民活動団体との連携について

(1) 官民連携の事業手法

導入事例

1. 指定管理者制度
2. 管理許可
3. 設置許可
4. PFI方式

37

(2) 官民連携の事例①

1. 指定管理者制度の事例

【公園名】 七北田公園

【対象施設】 ユアテックスタジアム仙台、体育館

【発注者】 仙台市

【受託者】 仙台市公園緑地協会・日本体育施設グループ

【手法】 公の施設の管理・運営を、法人その他の団体に地方公共団体が指定し、代行する

【その他の事例】

東京都 都立公園(上野恩賜公園など)
(指定管理者:東京都公園協会)



38

(2) 官民連携の事例②

2. 管理許可の事例

【公園名】 上野恩賜公園

【対象施設】 カフェ
(スターバックスコーヒージャパン(株))
(上野の森 Park Side Cafe) ストラ



【許可権者】 東京都

【事業者】 東京都公園協会(民間事業者への業務委託により運営)

【手法】 公園管理者以外の者に、公園施設の管理を許可する

【その他の事例】

横浜市 山下公園 コンビニ・カフェ・休憩スペース
(株ローソン)

39

(2) 官民連携の事例③

3. 設置許可の事例

【公園名】 高砂中央公園(宮城野区)

【対象施設】 仙台うみの杜水族館

【許可権者】 仙台市

【事業者】 仙台水族館開発株式会社



【手法】 公園管理者以外の者に、公園施設の設置を許可する

【その他の事例】

福岡市 大濠公園 カフェ
(スターバックスコーヒージャパン(株))

40

(2) 官民連携の事例④

4. PFI方式の事例

【公園名】 熊本城公園

【対象施設】 総合観光案内所、歴史文化体験施設、多目的交流施設

【発注者】 熊本市

【受託者】 KSBコンソーシアム・PFIグループ

【手法】 サービス購入型
施設整備、維持管理・運営に対する対価を
自治体が支払う

【その他の事例】

北海道 道立噴火湾パノラマパーク
(ビジターセンター、オートキャンプ場)
清水建設を代表企業とする特定目的会社



41

(3) 民間事業者アンケート

事業者アンケート結果

業者名	事業内容	関心のある点、意見
A事業者	コーヒーストア経営	飲食店(カフェ等)に関心 立地環境、利用者層に合った店舗デザインが可能 独立棟としたい
B事業者	コンビニエンスストア経営	飲食店(カフェ等)、物販に関心
C事業者	コンビニエンスストア経営	飲食店(カフェ等)、物販に関心
D事業者	飲食サービス、宿泊業	公園センターと青葉山公園全体の運営及び企画に関心 地元企業とプロジェクトを組んで参加したい 仙台市は藩政時代からの歴史・文化を販促に活かすべき
E事業者	青葉山公園公園施設の 指定管理者	公園センターと青葉山公園全体の運営及び企画に関心 自身が管理している施設との一体利用を視野に入りたい

42

民間活力の導入と事業者や市民活動団体との連携について

(4) 青葉山公園の主な市民活動①

歴史・観光ボランティア

団体名	主な活動	関心のある点、意見
NPO法人仙台城ガイドボランティア会	本丸地区のガイド 親子クイズラリー開催	ガイドの拠点 ガイドツアーの集合場所 ガイドの活動の宣伝 仙台の歴史探訪の拠点としたい
NPO法人シニアネット仙台 観光ボランティアガイド「ぐるーぷ・よっこより」	瑞鳳殿でのガイド 市内の歴史観光ガイド	
仙台市歴史と文化財ガイドボランティア友の会	歴史探訪ガイドツアーの開催	
仙台市博物館ボランティア三の丸会	博物館解説ガイド	

43

民間活力の導入と事業者や市民活動団体との連携について

(4) 青葉山公園の主な市民活動②

広瀬川ガイド・イベント

団体名	主な活動	関心のある点、意見
広瀬川をゆっくり歩く会	広瀬川を歩くイベント開催	ガイドの拠点 ガイドツアーの集合場所 広瀬川の魅力を伝える施設 仙台への来訪者のおもてなしの場所
カワラバン	川遊び体験開催(校外学習等)	
NPO法人広瀬川の清流を守る会	広瀬川でのイベント開催 情報誌の発行、清掃 各種河川活動との連携	

44

第2回懇話会検討事項

1. **(仮称)公園センターの機能と施設内容**
各施設について、公園センターを特徴づけるような具体的な内容
2. **整備イメージ**
立地特性や歴史性を踏まえた外観、景観に調和したイメージ
3. **民間活力の導入と事業者や市民活動団体との連携**
 - ① **官民連携について**
民間事業者が参画しやすい条件
 - ② **市民活動団体との連携について**
市民活動団体やボランティアが、積極的に関わり、幅広いサービスを提供できる運営の仕組み

第3回懇話会資料

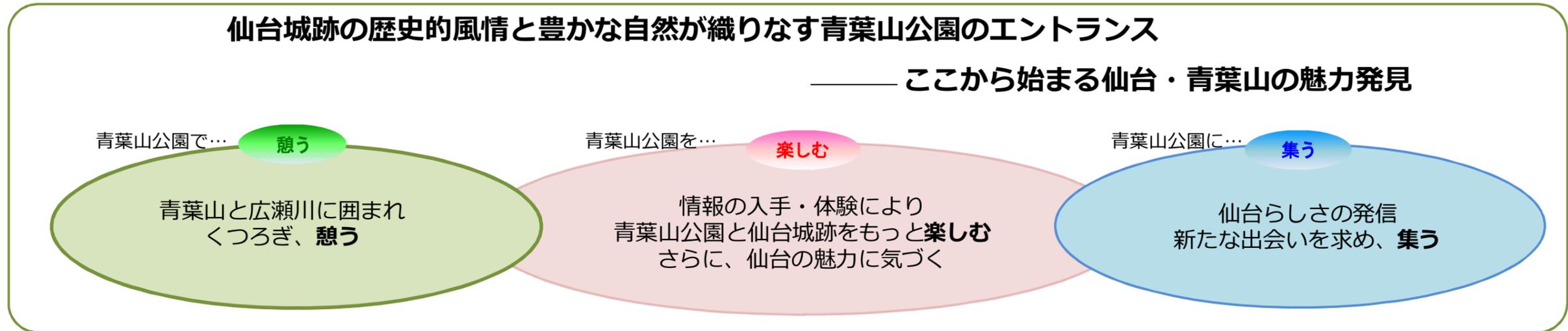
資料① 公園センターの役割と施設内容の整理	64
資料② 整備イメージについて	65

余 白

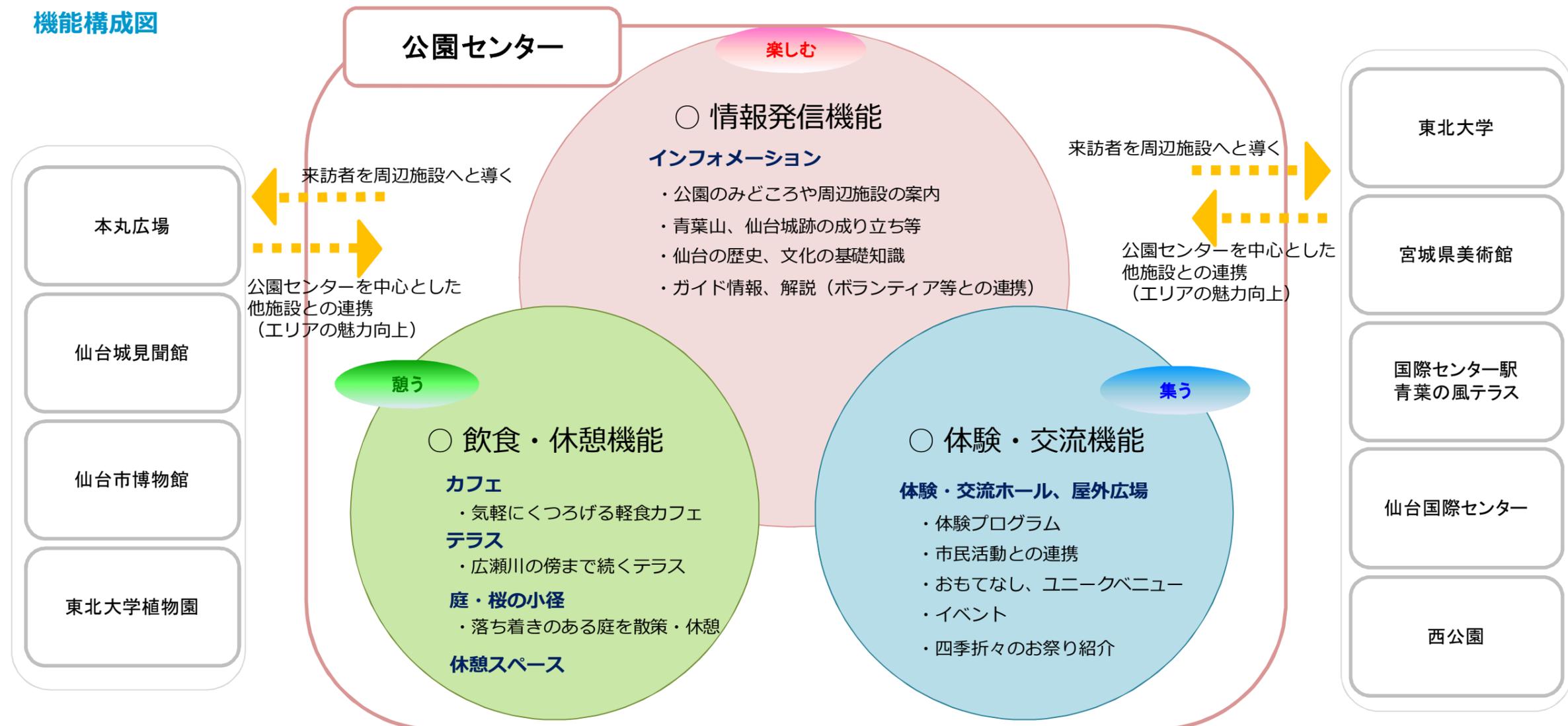
コンセプト

仙台城跡の歴史的風情と豊かな自然が織りなす青葉山公園のエントランス

——— ここから始まる仙台・青葉山の魅力発見



機能構成図



(1) 検討にあたって

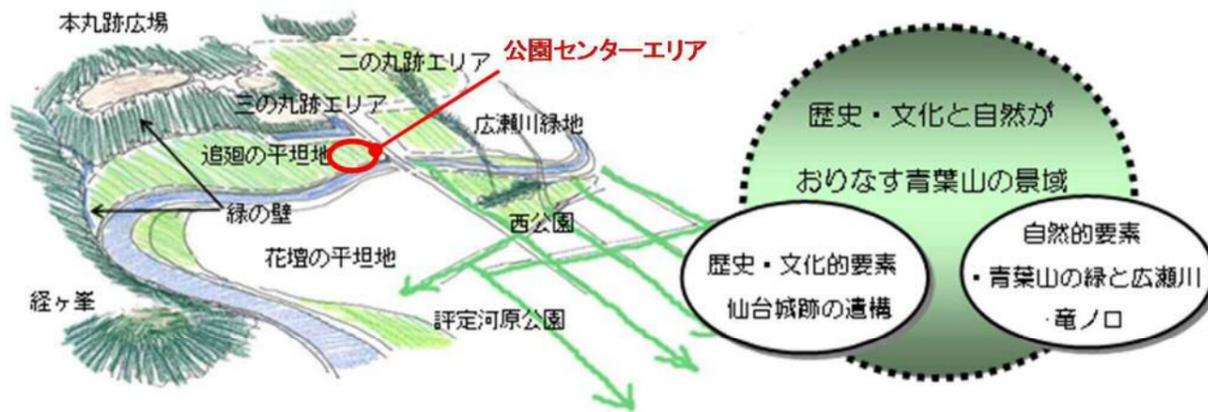
○「整備イメージ」とは？

空間イメージ [公園センターエリア全体のイメージ
公園センターの建物のイメージ]

ランドスケープデザインを行う際の基本的な考え方となるもの

○青葉山公園整備基本計画（平成24年3月）

①公園整備における「景域」(景観領域)の考え方



青葉山周辺地区は、仙台発祥の地としての固有の歴史や文化・自然・風景資源によって成立しているため、公園計画ではこの貴重な資源が一体的に存在している「景域」を有効に活用した公園づくりを基本とする。

②公園センターの整備イメージ

- ・(仮称)公園センターは、片倉小十郎屋敷跡に建設を予定していることから、歴史資料等を参考にした歴史的なデザインの採用を検討する。規模についても文化財発掘調査の成果を参考として機能と並行して検討していく。
- ・片倉小十郎屋敷跡の池は、建築と一体となった庭園風の広場を整備し、茶室等の施設と連携した利用が可能か検討する。



文化財発掘調査の実施
(平成24年度～平成27年度)

片倉屋敷の復元について
文化財調査の結果、位置と規模及び歴史資料との整合性が確認できず、片倉屋敷の全容がつかめない、復元は難しい。

(2) 検討のポイント

青葉山公園にふさわしい整備イメージとはどのようなものか？

- 景観との調和
- 観光、インバウンド
- ユニークベニュー
- 歴史的なデザイン
- 日本らしさ、仙台らしさ